

千歳市公立大学法人評価委員会による令和3年度評価結果を業務運営の改善に反映した状況
 (公立大学法人公立千歳科学技術大学)
 (地独法第78条の2(第29条の準用)による公表)

番号	評価項目 (今後期待される事項)	令和3年度評価における評価委員会 意見等	令和4年度の業務運営等への 反映状況
1	3 全体評価 (2) 総評	<ul style="list-style-type: none"> 法人による業務実績報告書の「全体評価」の記載方法に関しては、市民に公表することを踏まえ、人材育成、地域貢献、国際化に絞り主な実施内容及びその成果を具体的に記載すること、また、「法人による自己点検・評価項目」においては具体的な成果や貢献の程度、すなわち「質」の把握が容易になるよう記載することなど表記方法を工夫する必要がある。 	<p>令和4年度業務実績報告書から「全体評価」に人材育成、地域貢献、国際化の主な実施内容及びその成果を具体的に記載する。</p> <p>また、「法人による自己点検・評価項目」は、具体的な成果や貢献の程度が把握できるよう記載方法を工夫する。</p>
2	3 全体評価 (2) 総評	<ul style="list-style-type: none"> 今後、法人においては、「自立心と人間力に満ちた社会人を育成し、また、地の拠点として、産業経済の発展に寄与する」という法人の目標を踏まえつつ、人材育成、教育研究等を積極的に進め、これら社会の要請に応える優秀な人材を地域社会に輩出していくことを期待する。 	<p>人材育成においては、本学が地域の“知の拠点”として教育研究の知見を基に地域の課題解決に取り組み有為な人材の輩出に努めた。</p> <p>また、社会要請への対応については、地域連携センターが窓口となり、地域からの要請に応えた。</p>
3	3 全体評価 (2) 総評	<ul style="list-style-type: none"> グローバル人材の育成では、フィリピン大学と新たに連携協定を行った結果、連携大学が4機関となったことなど、国際交流に関する積極的な取組による成果がみられており、今後も提携大学や交流実績の拡大、教育研究力の向上などに努め、より海外に開かれた魅力と活力に満ちた大学となることを期待する。 	<p>令和4年度は新たに海外の3大学と連携協定を締結し、今後の学生の交流や共同研究の推進、さらには国際フォーラムの共同開催などについて議論した。</p> <p>このほか、海外大学から教員を招聘し本学教員との連携のもと、語学やプレゼン能力向上のためのセミナーなども開催した。</p>

番号	評価項目 (今後期待される事項)	令和3年度評価における評価委員会 意見等	令和4年度の業務運営等への 反映状況
4	4 項目別評価 「2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科研費などの外部資金獲得は、研究活動の活性化に大きく寄与するため、今後とも、メールやポータルサイトへの掲示などの情報提供に加え、より獲得意欲が向上する施策の強化など積極的な取組を期待する。 	<p>外部資金の獲得については、メールやポータルサイトへの掲示などの情報提供に加え、教員を対象に科研費獲得のための動画を常に公開した。</p>
5	4 項目別評価 「3 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置」	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNC 推進活動の一環として開催する情報交流会は、新型コロナウイルス感染症の影響により十分な活動が難しいと考えられるが、当該感染症の推移を踏まえつつ、さまざまな企業等との交流の場として開催されることを期待する。 	<p>令和4年12月に地域連携センターが主催した「SNC コンファレンス」ではハイフレックスによりセミナーを実施し、4つの企業を含む42名の方々が対面で交流を行った。</p>
6	4 項目別評価 「3 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携センターの地域課題の解決への活動、市内高等教育機関との連携活動など、法人が行う地域社会との連携・協力を進める各種取組は、広く周知するため、SNS など多彩な手法を用いて実施しているが、市民がより身近に感じることができる大学になるようさらなる工夫を期待する。 	<p>北海道千歳リハビリテーション大学及び日本航空大学校北海道とは、学生交流や研究成果紹介、セミナーの共同開催などについてオンラインにより2回意見交換を行った。</p>
7	4 項目別評価 「4 国際交流に関する目標を達成するための措置」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生にとって多様な文化や知識等を持つ者とともに学ぶことは、新たな知的発見を通じた知識技能の習得や人格的な成長に繋がるものであり、また、法人においても教育研究力向上に寄与することから、引き続き、学生の交流実績の拡大、海外大学との連携強化に向け取り組むことを期待する。 	<p>令和4年度は新たに海外の3大学と連携協定を締結し、今後の学生の交流や共同研究の推進、さらには国際フォーラムの共同開催などについて議論した。</p> <p>このほか、海外大学から教員を招聘し本学教員との連携のもと、語学やプレゼン能力向上のためのセミナーなども開催した。</p>

番号	評価項目 (今後期待される事項)	令和3年度評価における評価委員会 意見等	令和4年度の業務運営等への 反映状況
8	4 項目別評価 「6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置」	<ul style="list-style-type: none"> 科学研究費助成事業は、自己収入の確保策として有効であるため、今後とも、専門教育担当教員への積極的な申請の働きかけなどの具体的な取組により、中期計画の目標である応募申請率100%を達成できるよう期待する。 	<p>科研費の応募申請にあたり、全教員を対象とした研究計画書作成の研修会を実施しており、その際、未応募の教員に研究代表者として応募申請するよう働きかけた。計画期間中の応募申請率向上に努めている。</p>
9	4 項目別評価 「6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置」	<ul style="list-style-type: none"> 物品購入等の管理経費や施設設備の維持管理経費は、他大学の事例を収集して効果的な経費節減策を検討するなど、今後も効率的かつ合理的な予算執行による財務内容の改善を期待する。 	<p>研究実験棟設置のコピー機（教員及び研究室学生用）3台を更新したことにより、印刷単価が削減となり、モノクロ1枚あたり2.2円が1.1円となった。（財務課） このほか、契約事務においては、競争入札や見積り合わせを行い、支出の抑制に引き続き務めた。</p>
10	4 項目別評価 「7 自己点検、評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置」	<ul style="list-style-type: none"> 教育研究活動、地域貢献活動、学生活動、イベントなどのさまざまな情報について、ホームページやSNSに加え、広報紙や地域情報誌といった多くの市民が接する機会がある媒体を積極的に活用するなど、周知手法の工夫を重ねることにより、法人の各種活動の一層の認知度向上を期待する。 	<p>公開講座、SNCコンファレンス、タウントークなど、地域連携センターが主催する事業について地域連携センターwebサイトやLINE・インスタグラムなどを通じ、広報活動を行った。</p>
11	4 項目別評価 「8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置」	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は、本市を含む道央地域を中心に雪害が発生したところであり、大学運営への影響を最小限にする防災、減災対策の整備の重要性が増していることから、令和4年月から施行した危機管理マニュアル（地震対応）のほか、さまざまな災害に対応できるようマニュアル等の整備を継続して行い、一層の危機管理体制の充実・強化を期待する。 	<p>令和4年度は、年度内に数回大学宛に爆破予告があったため、爆破予告への対応マニュアルを策定した。</p>